

# 研究成果の紹介

## レタス萎黄病を媒介するヒメフタテンヨコバイの発生消長と薬剤防除

淡路地域の10～11月穫りのレタス（約200ha）において、ヒメフタテンヨコバイが媒介するレタス萎黄病の発生が問題となっている。媒介虫の生態に関しては不明な点が多いため、その発生消長を検討し、7月下旬～9月上旬に発生のピークがあることを明らかにした。また、薬剤による防除効果を確認した。

### 内容

2012年4～11月にかけて淡路農技センター場内に設置している予察灯（白熱60W）に飛来するヒメフタテンヨコバイ成虫（写真）の個体数を計測し、発生消長を調査した。また、2012年9月に場内レタスほ場において薬剤効果試験を行った。

予察灯への誘引状況は図1のとおりである。

本種は成幼虫で越冬後、付近の雑草や水稻に移動し増殖した後、秋期にはレタスに移動する。



写真 ヒメフタテンヨコバイ♀成虫（左 体長：約3mm）と萎黄病（右 黄化及び萎縮）

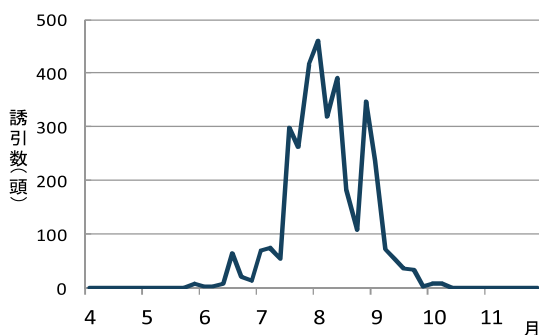


図1 ヒメフタテンヨコバイの発生消長

（淡路農技 2012年）

発生最盛期は7月下旬から9月上旬にかけてで、9月下旬以降には発生は減少するため、防除対策は9月上旬中旬頃まで必要だと考えられる。

薬剤試験についてはプレバソフロアブル5とジュリボフロアブルの2剤を用いた。レタスの品種はJ-31、定植は9月10日で、いずれも9月7日にセル苗<sup>かん</sup>灌注処理を行った。防除効果は図2のとおりで、定植後35日の時点で両剤とも無処理と比較して防除価は約80と高く、実用性があると考えられる。

### 普及上の注意事項

現時点では灌注処理以外の登録剤は無いが、今後は散布剤についても登録拡大予定である。

二井 清友（環境・病害虫部）  
（前淡路 農業部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-1222）

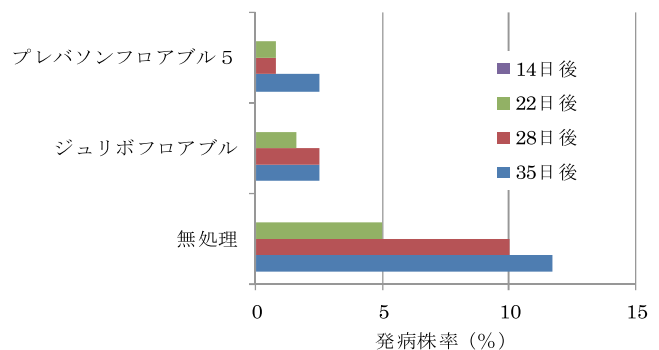


図2 レタス萎黄病に対する防除効果

（淡路農技 2012年）